

# 笑顔のために



同僚と誕生日のお祝い（筆者中央）

## リハビリは、患者のもっている能力を最大限に引き出すためのお手伝い

こんにちは。ラムドン省バオロック市にある、ラムドン省第2総合病院で言語聴覚士として活動をしている外山史です。バオロック市は、ダラットからバスで南に2時間移動したところにあり、ベトナムで1、2を争うコーヒーの生産地であり、シルクやお茶の名産地でもあります。

日々の活動の話の前に言語聴覚士の仕事についてお話しさせていただきます。言語聴覚士は、食べること、話すこと、聞くことの専門家とされています。嚥下障害（飲み込む力の低下により、ごはんや飲み物、唾液がうまく飲み込めなくなる）の方が、ムセることなく安全に飲食できるように訓練を行います。また、脳血管障害により、思うようにことばが出てこない、一生懸命喋っても聞き取りにくい発音になってしまう方のことばの訓練をします。

その他、ことばの遅れのあるお子さんの発達を促す訓練をしたり、友だちとうまくやりとりできない発達障害のお子さんに対し、コミュニケーションの訓練をします。また、聴覚検査を行ったりもします。なんとなくイメージが湧きましたか？実は言語聴覚士って、日本全国に29,225人もいますよ。（※2017年までの国家試験合格者数の累計より）

ベトナムでは、言語聴覚士はまだまだ新しい職業であり日本以上に認知度が低いのが現状です。私の協力隊としての活動は、ベトナム人の同僚と言語聴覚療法についての知識の共有、提供する言語聴覚療法の質の向上、言語聴覚療法について広く一般の人に知ってもらうことです。活動をしてい



日本とベトナムのお好み焼き・バインセオ対決！

て難しいと感じることは、やはりベトナム語の発音です。ベトナム語には6つの声調があります。例えば「qua（過去）」、「quá（とても）」、「quà（プレゼント）」、「quả（果物）」、「quạ（カラス）」と、同じ文字でも声調が異なると全く意味の違うことばになってしまうので、声調をしっかりと発音し合わせる必要があります。ベトナムに来てすぐの頃は、自分の発音に自信がなく、失敗することを嫌ってあまり積極的にしゃべることができませんでした。そのため、無口な人間だと思われていたようです。しかし、失敗を恐れず話し続けることで、今は簡単な冗談を言えるようになり、ベトナム人からよくしゃべる面白い人だと認められました。

リハビリは、患者が患者らしく日々の生活を行えるよう、患者のもっている能力を最大限に引き出すためのお手伝いをさせていただくことだと考えています。しかし、活動をする中で患者も患者の家族も全体的に受け身で、「療法士がリハビリをしてく

ればよくなる」と考えている方が多いように感じます。リハビリは受けるものだという概念と、リハビリをした数週間～数ヶ月後のビジョンが描けていないことが理由の一つとして挙げられると思います。療法士は魔法使いではないので、病気を完全に治すことはできません。また、リハビリをする上で、患者や家族の病気をよくしたいという強い気持ち、そのための努力は必要不可欠です。しかし、これまで受け身でいた人に積極的にやっていきましょう！と言っても、急には考え方も習慣も変えられないと思うので、リハビリの技術だけではなく、どのようにしてベトナム人療法士、患者や家族にリハビリの考え方について伝えていくかが今後の課題だと思っています。理解促進につながれば、と言語聴覚士について書いた壁新聞を病院内の至る所に掲示させてもらっています。

私が協力隊員としての活動をすることで、ベトナム、日本両国のみなさんに言語聴覚士を少しでも身近に感じてもらえたら嬉しいです。また、まわりの人たちにとって私自身がお互いの国のことを知るきっかけや架け橋のような存在になれるよう、活動していけたらと思っています。

### ●プロフィール

#### 外山 史（とやま ふみ）

愛知県生まれ。大学では国際協力を専攻。大学在学中に留学先のマレーシアで言語聴覚士の仕事に出会う。大学卒業後に専門学校で2年間学び、言語聴覚士の資格を取得。愛知県の病院で約5年勤務後、中学時代からの夢であった青年海外協力隊としてベトナムで活動中。

